

7 教職員研修の充実

①施策の展開	学ぶ力の育成	課名	教育研修センター
②取組概要	市立学校園の教職員の資質向上をめざした研修を行うとともに、 <u>学習到達度調査</u> ⁽¹³⁾ や教育研究員活動などの調査・研究の成果を活かし、学校の教育力向上を図る。		
③構成取組	(1) 教職員研修 (寝屋川教育フォーラム、教職員短期派遣研修を含む) (2) 教育研究員活動 (共同研究校事業を含む) (3) 学習到達度調査 (4) <u>教育情報化コーディネータ</u> ⁽¹⁴⁾ 配置事業		
④取組計画	(1) 市立学校園の教職員の資質向上を図るため、課題に応じた各種研修や、寝屋川教育フォーラム、先進校への教職員短期派遣研修を実施する。 (2) 「一人ひとりが生きる授業・保育をめざして」を全体テーマに、9年間での一貫した人づくりを行うことをめざした小・中学校の教育についての調査研究、幼稚園と小学校の連携・交流の実践研究を進めるため、教育研究員活動を実施する。また、国語科、算数・数学科において、9年間の学習指導のあり方を中学校区単位で研究する。 (3) 学習指導要領に定められている学習内容の定着度を測るため、小学校2～5年生を対象に国語、算数を、中学校1～3年生を対象に、国語、数学、英語(中学3年生は英語のみ)の学習到達度調査を実施する。 (4) 小中学校においてICT機器を活用した教育の充実を図るため、各中学校区に1名ずつ教育情報化コーディネータを配置する。		

⑤取組実績

(1) 初任者研修や 10 年目研修など経験年数に対応した講座、専門性を深めるための講座、組織マネジメントや生徒指導・支援教育等の様々な教育課題に対応する講座を開設して研修を実施し、幼・小・中学校園の教職員の資質向上を図った。

<教職員研修参加人数>

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
参加人数	7,376 人	7,865 人	8,829 人

- ・ 「寝屋川教育フォーラム 2012」では、学校と保護者とのより良い関係を形成していくことをテーマに、学識経験者を招聘し、午前の部としてシンポジウムを行い、午後の部として 14 の分科会を行った。

<教育フォーラム参加人数>

	テーマ	参加人数
平成 22 年度	ことばを育て思考力を鍛える -教科の力と学ぶ意欲をはぐくむ言語活動-	1,586 人
平成 23 年度	共に学び、共に育つ集団の育成 -問題を未然に防ぐ開発的生徒指導のあり方-	1,496 人
平成 24 年度	先生が元気になる集い in 寝屋川	1,407 人

- ・ 短期派遣研修として、生徒指導力向上のために広島県の生徒指導先進校に、英語指導力向上のために東京都の英語教育先進校に、国語科教育の実践力向上のために筑波大附属小中学校に教員を派遣した。

(2) 市立幼・小・中学校園教員の中から委嘱した教育研究員 128 人（幼稚園 6 人・小学校 70 人・中学校 52 人）が、16 の研究部に分かれ、全体テーマに沿った研究テーマを設定して研究を進め、その成果を研究紀要にまとめ、研究発表会を実施した。

中学校区の共同研究として、小中一貫教育9年間での学力のゴールイメージを明確にするため、前年度引き続き国語科、算数・数学の共同研究を実施した。

<研究部数：研究員人数>

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
16 研究部：118 人	20 研究部：155 人	16 研究部：128 人

(3) 学習到達度調査の結果

(単位：%)

		小 2	小 3	小 4	小 5	中 1	中 2	中 3
国語	正答率	79.7	78.0	66.1	74.5	67.5	59.8	—
	達成率	75.7	71.5	62.9	73.3	66.4	57.4	—
算数 数学	正答率	86.1	74.5	73.8	71.0	72.3	61.6	—
	達成率	85.0	75.5	70.4	74.1	74.7	69.4	—
英語	正答率	—	—	—	—	91.2	62.5	62.1
	達成率	—	—	—	—	—	56.3	57.7

※ 正答率とは、児童生徒が教科の問題に対してどれだけ正解したかをあらわしている。

※ 達成率とは、教科の学習内容を理解していると考えられる児童生徒数の割合をあらわしている。

調査結果の分析から、各学校や中学校区の成果と課題が明らかになり、それを踏まえ校内や中学校区の研修会等で、授業方法等について改善策を研究し、少人数指導や習熟度別など指導方法、学習内容の工夫改善等を行った。また、調査結果を記載した個人票、子どもの学習や生活の習慣に関する個票を作成し、学校における個人懇談等で活用した。

(4) 教育情報化コーディネータが、前年度に引き続き各小中学校において I C T 機器を活用した授業を実践するための環境整備や設置補助を行いつつ、機器操作や教材作成のアドバイス等を行った。

⑥評価

(1) 課題に応じた研修や、道徳研究発表大会に関連した研修を実施し、研修参加人数が増加した。経験年数の浅い教職員が増える中、研修の成果を校内や中学校区に広めるためのスキルを向上させるなど、本市の状況に応じた研修をさらに充実させ、教職員の資質向上を図る必要がある。

寝屋川教育フォーラム 2012 は、参加者よりおおむね高い評価を得、学校と保護者とのより良い連携のあり方について見識を深めることができた。

(2) 教科指導について、小中 9 年間を見通した研究を継続して行い、子どもに付けるべき学力のゴールイメージを明確にした授業作りにつながった。その成果を研究紀要や研究発表会などにより市立学校園に広く示した。今後も研究を進めるとともに、その成果を授業実践として広げていかなければならない。

(3) 学習到達度調査の結果から、中学校 1 年生の英語では基礎的な単語や表現について十分理解できており、小学校の「国際コミュニケーション科」の成果であると考えられる。また国語では語句や文のきまりについて、算数・数学では基礎的な計算力の定着が見られる。一方、グラフや表から分かったことを踏まえて、自分の考えを文章で書く力については、依然として課題が見られる。知識・技能を活用し、課題を解決する力を育む学習指導に一層力を入れていくことが求められる。

(4) 教育情報化コーディネータ配置事業により、機器の操作方法や教材の作成方法について効果的な研修ができた。今後は、ICT機器を有効に利用し、知識を活用する力や言語力の育成を図る授業を実践する指導力を身につけさせることが必要である。